

細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果

本市では、小・中学校のより良い教育環境の充実を図るため、平成25年11月に「下野市学校適正配置基本計画」を策定し、過小規模の解消を目指す学校として細谷小学校と国分寺西小学校の2校を位置づけ、小規模特認校制度を利用しながら保護者や地域とともに複式学級の解消に努めてまいりました。

平成28年4月に小規模特認校における取組状況と今後の在り方を方向付けるため、「下野市学校適正配置推進協議会」を設置し、その検証を行い、国分寺西小学校については国分寺小学校との再編を、細谷小学校は令和元年度に再度検証を実施し、更なる方向性についての検討を行うことを下野市教育委員会に提言しました。

今年度本協議会では、提言に基づき、細谷小学校の小規模特認校制度の取組状況の検証と今後のあり方の検討を行うため、これまでに4回の会議を開催し、小規模特認校である細谷小学校の現状と3年間の取組、成果と課題、保護者や地域に対する説明会での意見等を踏まえ、今後の方向性についても慎重に審議を重ねてまいりました。

この度、同校の小規模特認校における取組について、次の通り提言いたします。

提言 細谷小学校における小規模特認校の取組に対する検証結果

1. 細谷地区及び細谷小学校の現状

細谷地区の人口、世帯数は都市計画法に基づく開発許可の増加により、平成30年度からは増加しましたが、前回検証を行った平成28年度と比較すると、世帯数は微増したものの人口は減少傾向にあります。

細谷小学校における児童数の推移について、細谷小学校区内から通学する児童数は、ほぼ変化はありませんでしたが、小規模特認校制度を利用した児童数は、平成28年度から倍増し18名となり、全体の児童数は増加しました。このことから、平成28年度に2学級あった複式学級は、平成31年度には、1学級に減少しております。

2. 小規模特認校制度の取組

本協議会では、細谷小学校に関する委員からの報告や意見により、次の(1)及び(2)のような取組がなされていることを確認しました。

(1) 細谷小学校での特色ある取組

① 豊かな体験活動

全児童によるいちご摘み、梨狩り、ブルーベリー狩り、3年生の社会科の学

習での「かんぴょうづくり」見学や収穫・皮むき体験など、学区内農家の全面的な協力を得て様々な体験活動を実施しています。また、秋には全校校外活動として、筑波山への登山体験や益子焼の作陶体験を行い、学校では経験できない活動を通して、全校児童みんなで感動を味わい、互いに助け合い励ましあって活動することの大切さを体得しています。さらに、運動会、学校祭、音楽鑑賞会では、地域の方を招待し、一緒に楽しむ場を意図的に設け、学校を応援してくれる方々への感謝の気持ちを持たせることも、心の成長を育む大事な教育活動となっています。

一方、学校行事や様々な集会活動では、学年を越えて児童主体の活動が多く取り入れられ、小規模校だからできる「誰もが主役」の体験が、児童一人ひとりの自己有用感を高め、自尊感情の高まりにつながっています。

② 学年を超えた縦割り活動

市小中学校音楽祭などでのオカリナ演奏と全校合奏、全校縦割り校外学習、ランチルームでの全校給食、昼休みに縦割り班で一緒に遊ぶ共遊（わくわくタイム）の充実、清掃活動などを実践することで、高学年児童は下学年児童を思いやる言葉かけが身につく、同時に下学年にとっても、常に自分のそばで支え見守ってくれる上級生を敬う気持ちが醸成されています。

③ 学校運営協議会

地域とともにある学校づくりを推進するために設置した学校運営協議会において、小規模特認校としての取組に対する課題、改善点などについて、地域や保護者の皆様から積極的に意見をいただきました。

（２）広報の取組

教育委員会と連携し、就学時健診の時期に市広報誌に特集の掲載や、市庁舎に小規模特認校の案内ポスターを掲示するなどの取組を行ってまいりました。

また、細谷小学校のホームページの学校行事について積極的に更新を実施し、市内幼稚園、保育園の保護者が集まる行事の際に校長が出向き、小規模特認校の案内、説明を行うなど細谷小学校における小規模特認校制度の周知を行ってまいりました。

（３）取組の成果

細谷小学校での地域やPTAの方々の支援による体験学習などの特色ある教育活動の取組みや、広報活動で市内保護者への周知により、小規模特認校制度の利用児童数が、平成28年度の9名から令和元年度には18名に増加しました。

3. 検証結果

細谷小学校での特色ある教育活動や広報活動により、小規模特認校制度の利用児童数が平成28年度から倍増するなど、同校における小規模特認校制度は一定の効果を上げていると考えられます。

しかしながら、細谷地区の現状については、開発許可の増加による一時的な人口増加はあったものの、継続的な人口増加は見込めない状況であり、3年前の平成28年度と比較しても、地域の人口、世帯数、児童数は大きな変化が認められませんでした。

他方、国分寺西小学校が今年度に国分寺小学校と再編となり、市内の小規模特認校が細谷小学校の1校のみとなったこと、また、令和4年度に（仮称）南河内中学校区義務教育学校の開校に合わせて小学校数が減少することに鑑み、市民の義務教育機会の確保という観点からも、小規模特認校制度のあり方について慎重に検討を重ねていく必要があります。

このような状況から、本協議会は、細谷小学校の特色ある取組をさらに市民に広く周知しながら、小規模特認校制度を継続させ、「下野市学校適正配置基本計画」に明記されている複式学級の解消を目指すことが重要と現時点では考えます。以上のことを踏まえ、これらの取組の成果の検証を3年後の令和4年度に行い、児童の教育環境の充実を図ることを念頭に、「下野市学校適正配置基本計画」に則り、細谷小学校における小規模特認校制度の取組について更なる検証を行うことを提言します。